



ビューアーモジュール編

2018. 7. 7

目次

ビューアーモジュール編

1.	起動	1
2.	起動時のメイン画面	1
3.	地図の種類	1
4.	システムメイン画面各部位	2
5.	診断結果を登録する。	2
6.	登録データ	4
7.	診断した場所と撮影画像を見る。	4
8.	画面表示範囲の変更	5
9.	診断画像の保存	5
10.	その他メニュー	6
11.	出力	10
12.	設定	10
13.	印刷	12

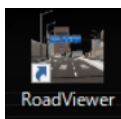


ビューアーモジュール（地図表示）編

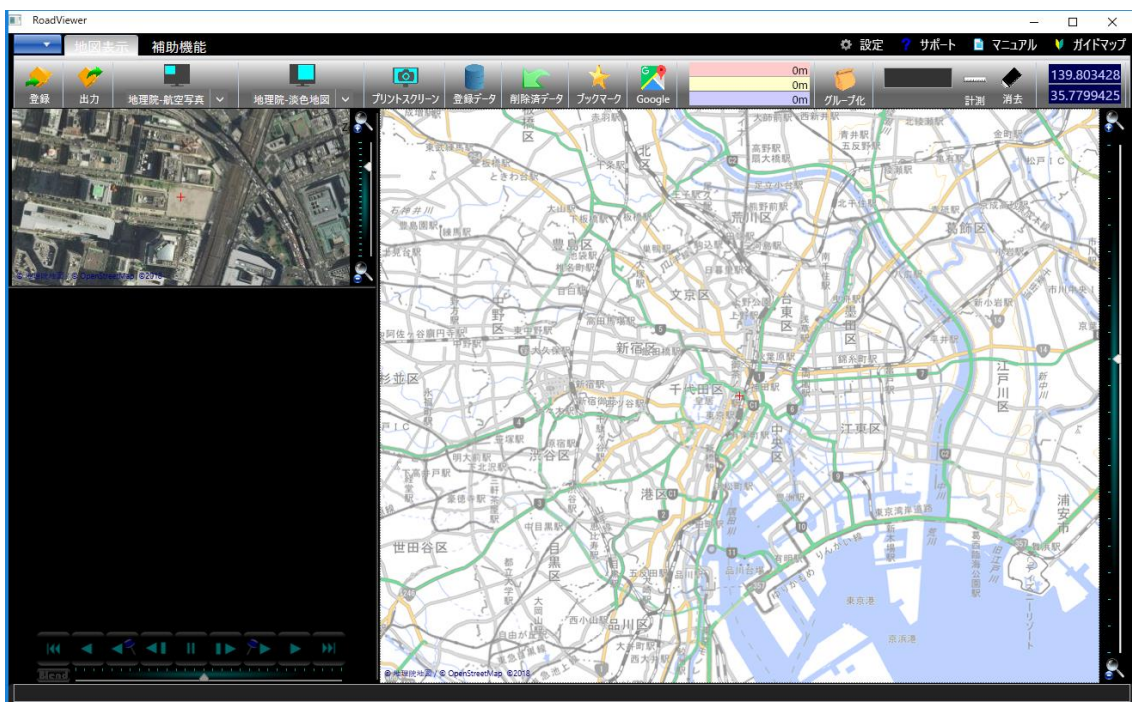
ビューアーモジュールは、本システムで構成される撮影モジュール・診断モジュールの結果を地図情報システム（GIS）によって視覚的確認できるモジュールとなっています。

1. 起動

インストール時に作成したアイコンをクリックしシステムを起動します。



2. 起動時のメイン画面



注意※地図を表示するには、インターネットへの接続が必須となります。

3. 地図の種類

○国土地理院 地理院地図 地形・航空写真

○オープンストリートマップ

※詳細は、システム内のマニュアル「地図等のインターネット公開サービス利用について」をご参照ください。

4. システムメイン画面各部位

○地図表示画面及び診断後画像表示



○地図のスクロール

マウスを右クリックでドラッグしながら地図を動かすと、スクロールします。

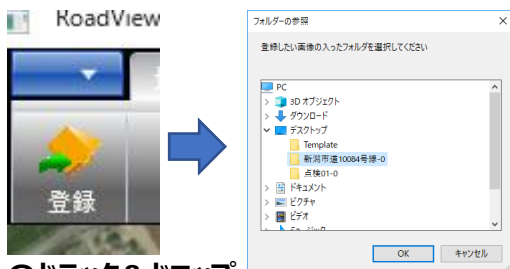
○地図の拡大・縮小

マウスホイールを前後に回転すると拡大・縮小されます。

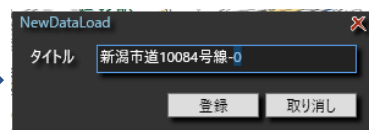
5. 診断結果を登録する。

診断結果をビューアーモジュールに登録するには、画面の左端上の登録から登録する方法と診断結果のフォルダーをドラック＆ドロップの2種類の方法があります。

○フォルダー指定



モジュールに登録する際に、タイトルを編集することができます。
※すでに登録されているタイトルと重複しない様にしてください。



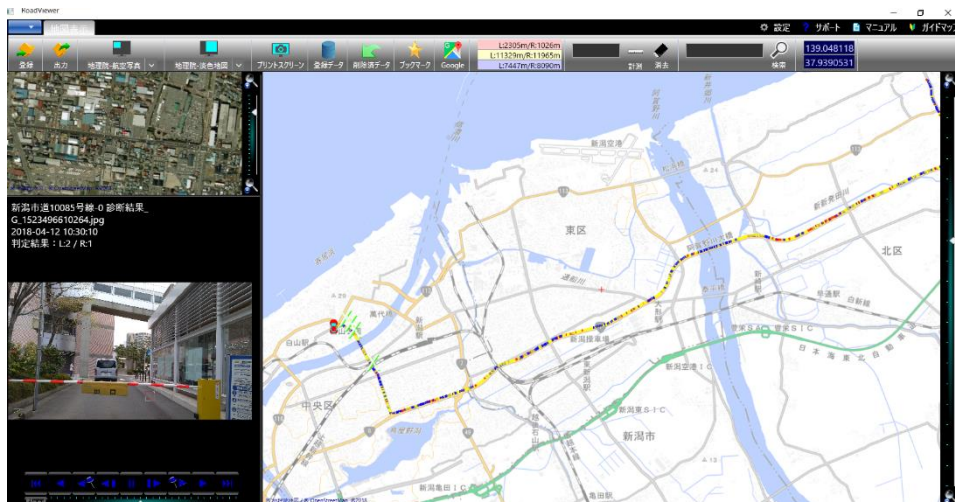
○ドラック＆ドロップ



○診断結果取り込み完了

診断結果が取り込まれると、メイン画面の地図背景の上に赤・青・黄色の診断結果が表示されます。

メイン画面の右下には、診断結果の画像が表示されます。



○診断前画像を取り込んだ場合

撮影した画像を診断せずに取り込むと水色の線で表示されます。



地図上に診断結果（走行軌跡）が表示されたら、写真を

確認したい位置の線をマウスで左クリックしてください。

車のアイコンが表示されると同時に、写真表示がクリックした位置の

データに切り替わります。



車アイコンを右クリックする事で、マーク操作のメニューが表示されます。

当該位置にマークを落としたい場合は、「マーク登録」を、

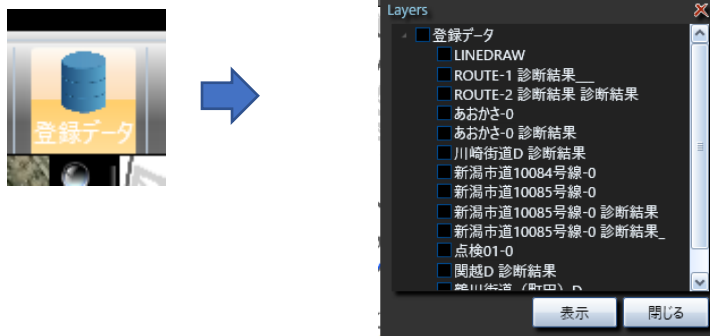
既にあるマークを消去したい場合は、「マーク消去」をそれぞれ選択してください。



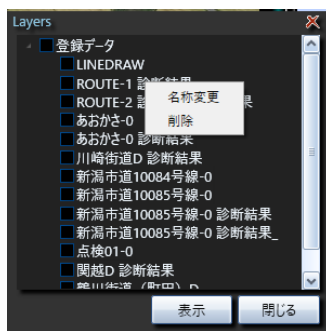
6. 登録データ

ビューアーモジュールに登録したデータを切り替えて表示する事ができます。

チェックボックスにチェックを入れます。



登録データを削除するには、消したいデータにカーソルをあわせ右クリックすると、名称変更と削除が表示されますので、削除を選択します。



※削除したデータを元に戻すことも可能です。

7. 診断した場所と撮影画像を見る。

地図上に表示されている・赤・青・黄の線上をクリックするとその場所の画像が表示されます。



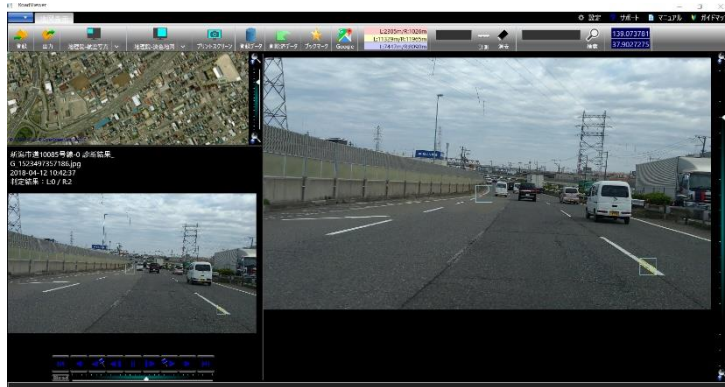
診断画像を連続して再生することも可能です。
画像と地図が連動して動きます。



※再生の速度も調整できます。

8. 画面表示範囲の変更

左下の診断画像をクリックすると地図表示エリアに診断画像が表示されます。

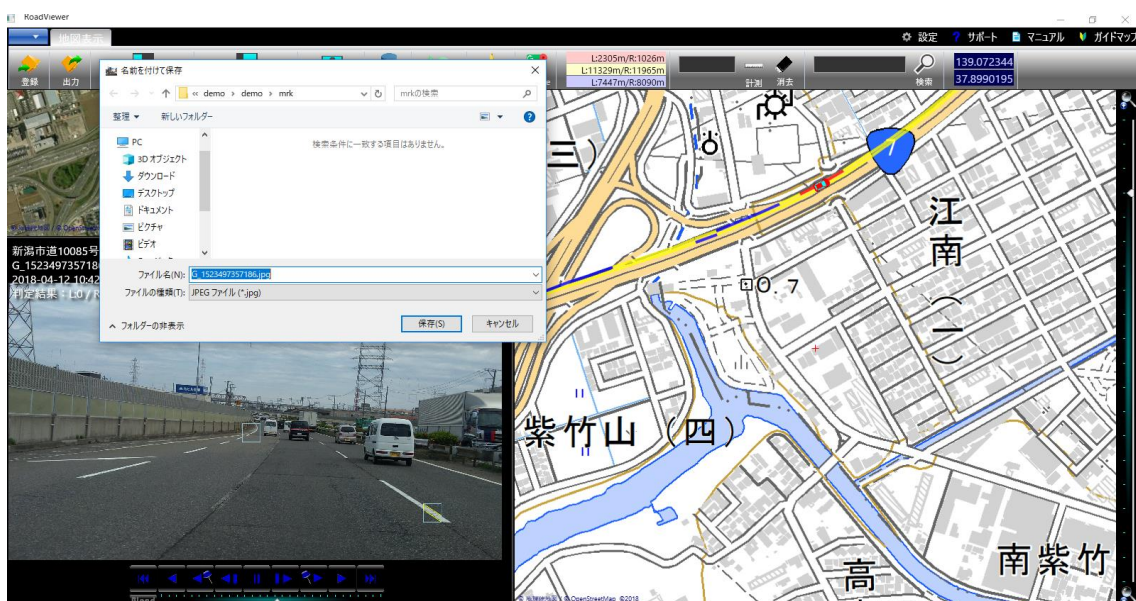


下記の部分をドラックすると画面の表示範囲を変更できます。



9. 診断画像の保存

診断画像を右クリックをすると表示されている画像を保存できます。



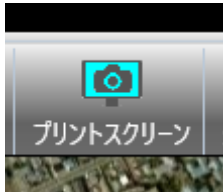
10. その他メニュー

○スクリーンショット

表示されている画面のイメージをイメージデータ（PNG 形式）として保存します。

※保存先は、デスクトップになります。

※印刷して資料としても利用可能です。



○ブックマーク

画面に表示されている位置を、ブックマークに登録します。

※気になる場所をブックマークし後で見直すことができます。



○Google MAP 連携

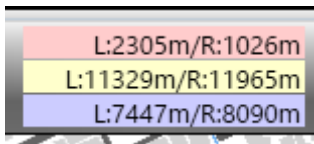
地図表示されている位置を、GoogleMAP にて確認する事ができます。



○剥離延長表示

診断した赤・青・黄のそれぞれの距離を表示してます。

※撮影ポイントからの距離となりますので、実際の剥離の延長とは異なります。あくまでも目安です。

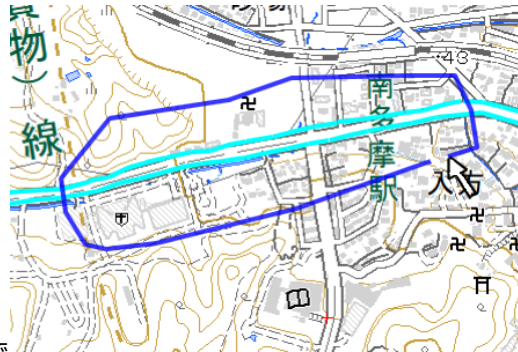


○グループ化

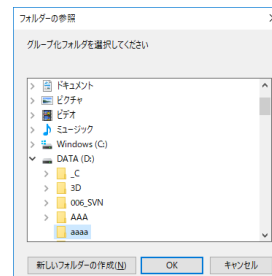
登録したデータをマウスで囲むことで、囲まれた範囲内のデータを切り取り、指定したフォルダに登録することができます。



右図のように、グループ化したいデータをマウスの左クリックで囲んでください。
左ダブルクリックで、フォルダを聞いてきますのでグループ化したデータを登録したいフォルダを選択してOKをクリックしてください。



※各点間の登録時刻が5分以内のデータを走行経路と認識しますので、異なるグループのデータでも5分以内のものであれば、走行経路として結合され集計値に加算されます。



○計測

地図上の距離を計測するために使用します。
マウスの左クリックで、距離を計測します。



マウスでクリックした地点の合計距離を表示します。
表示を消す場合は、消去ボタンで消せます。



終点



始点

※計測を行わない時は、計測ボタンを押してください。
上記は、計測モードになっている状態です。

OCSV 読み込み

国土交通省 基準点案内システム (<http://www.road-refpoint.jp/>) で出力された
実測版 KP に対応しています。

※その他の CSV を扱う場合は、別途営業担当までお問い合わせください。

システムを起動し、エリア表示メニューを選択し、

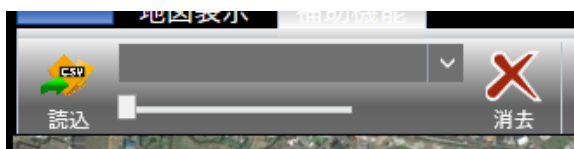
道路基準点種別 ⇒ 実測版

事務所 ⇒ 読み込みたい管理事務所

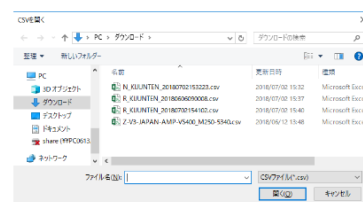
を選択した後、表示 ⇒ CSV 出力を行ってください。



詳細については、基準点案内システム内 「サービスのご案内」 をご参考ください。



読み込みをクリックすると右記ファイル選択画面が開きますので、読み込みたい
KP データを指定して、「開く」をクリックしてください。



読み込みボタンの横に、読み込んだ CSV ファイル名が表示された状態で、
スライダ操作する事で当該 KP 表示の濃度を調整する事ができます。
読み込みを解除したい場合は消去ボタンをクリックしてください。



○住所検索

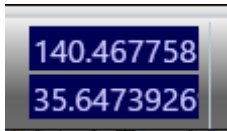
地図上の地名を検索し地図を表示します。

地番・住所には、対応していません。**※大字レベルまで**



○. 座標情報

マウスカーソルの座標情報を表示します。



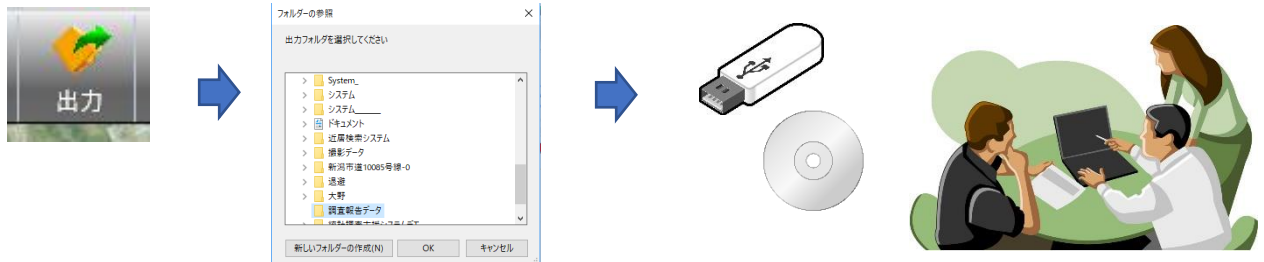
1 1. 出力

○簡易ビューアー出力

環境一式を簡易ビューアとして指定したフォルダ（ドライブ）へ作成します。

出力したフォルダは、外部媒体にコピーし調査結果として役所へ提出することも可能です。

※簡易ビューアーについては、ライセンスの制限はありません。



1 2. 設定

○ビューアーモジュールのバージョンの確認。

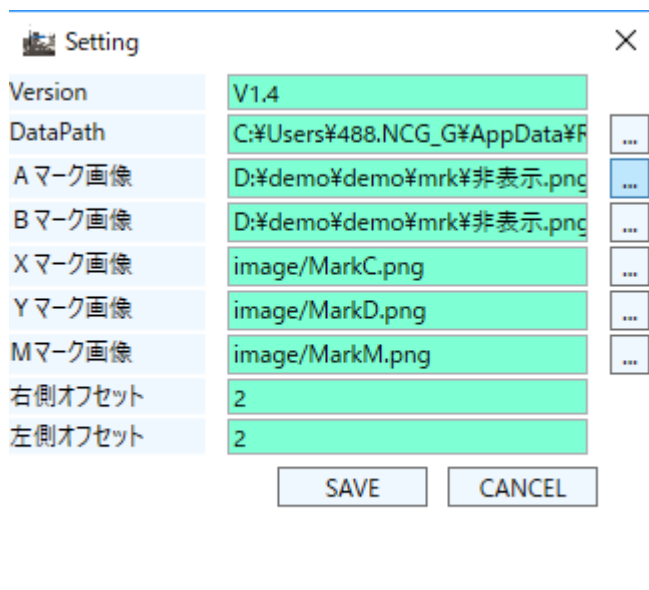
○登録データの格納先を指定できます。

○リモコンで登録した個所のマーク画像を変更できます。

※マーク画像変更について

マーク画像は「大きさ 幅 22x 高 32 ドットで原点は右下」としてシステムが動作しますので、変更される際はこの条件に合うように画像のリサイズ等を行ってください。

マーク画像は起動時にシステムに読み込まれますので、変更された際は一旦システムを再起動してください。



○マーク画像を変更したイメージ



○右側・左側オフセット

線の太さを変更できます。

リモコンで登録したマークだけを強調したい場合は、オフセット値を 0 にすると、診断結果は、3 色は表示されず、マークのみが表示されます。

右側オフセット	<input type="text" value="0"/>
左側オフセット	<input type="text" value="0"/>



13. 印刷

システム画面の左上のメニューから地図の印刷をします。

